

# たまねぎのべと病対策について

◎べと病の症状◎

## ■一次感染型



一次感染株から感染

## ■二次感染型



以下の条件では特に多発に注意！

- 気温15℃前後
- 曇・雨天が続く

作物残さなどから11～12月に苗床や定植後のほ場で感染し、2～3月に症状が現れる。

**症状**…葉が湾曲し、黄色く色あせる。

一次感染株から感染が広がり、3～5月に急速にまん延する。

**症状**…葉に淡黄緑色で楕円形の病徴が現れ、カビが生じることもある。

## ■農薬の例

農薬名	効果	系統(FRAC)	希釈倍数	使用時期	使用回数
ジマダ イソ水和剤	予防	ジチカ-バ-メト類 (M3)	400～600倍	収穫3日前まで	5回以内
タコニール1000	予防	カコニル類(M5)	1000倍	収穫7日前まで	6回以内
プロホース 顆粒水和剤	予防/治療	カコニル類(M5) CAA 殺菌剤(40)	1000倍	収穫7日前まで	3回以内
ランソフロアブル	予防/治療	Qii 殺菌剤(21)	2000倍	収穫7日前まで	4回以内
アミスター2070アブル	予防/治療	アゾキシストロビン(11)	2000倍	収穫前日まで	4回以内

※タコニール1000、プロホース 顆粒水和剤に含まれる成分TPNの総使用回数は、6回以内。

## ■対策

- 圃場で異常な株を見つけたら抜き取りましょう。
- 以前べと病が発生した圃場では、予防的に農薬散布をしましょう。
- 農薬散布は約10日おきにローテーション散布(違う系統の農薬を交替して使うこと)がおすすめです。

# 水稻の田植え後の管理について

## ポイント① 水管理をして初期生育を確保しましょう

◎水管理のめやす◎

	水深	効果
<b>活着期</b> (田植え後～7日)	5～7cm (深水)	● 低温・風による植え傷みを防ぎ、根つきが良くなる ● 昼夜の水温差が少なくなり、保温できる
<b>分けつ期</b> (田植え後7日～10日 以降から中干しまで)	2～3cm (浅水)	● 水温が上がり、分けつ、発根が促される

※ジャンボタニシ被害がある場合は、田植え後～20日間は水深4cm以下の浅水管理をして活動を抑えましょう。

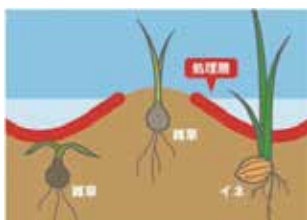
※除草剤の効果を発揮させるため、田面が露出しないようにしましょう。

## ポイント② 除草剤を効果的に使いましょう

● 除草剤は適期に使用し、散布時の水深を確保しましょう。

目安：粒剤：3～5cm フロアブル、ジャンボ、豆つぶ剤：5～7cm

● 田面が露出する部分は処理層ができず、除草効果が得られません。丁寧に代かきし、田面を平らにしましょう。



● 使用後7日間は落水・かけ流しをしないようにしましょう。

● 水が自然に減る場合はできるだけ静かに水を入れ、水の動きを最小限にしましょう。



水口に板を設置すると水の流れを緩やかにできます。